

近畿部会第154回例会

■テーマ 全史料協第45回全国大会・公文書館機能普及セミナーの
報告会 と ワークショップ

■と き 令和元年(2019)12月9日(月曜日)
午後1時30分～5時00分
(報告会) 午後1時30分～3時40分
(ワークショップ) 午後3時50分～5時00分

■ところ 尼崎市総合文化センター 7階第1会議室(兵庫県尼崎市昭和通2-7-16)

■報告者 青木弥保氏(安曇野市文書館)
徳野 隆氏(徳島県立文書館館長)

■内 容

各自治体で歴史的公文書をめぐ
る新しい動きが出ています。
本例会では、全史料協の大会及び
山形県で開催された全史料協セミ
ナーでの報告及び議論についての
情報共有とともに、こうした新た
な流れについて、議論を深めるこ
とができればと考えています。

また、当日は「共有しませんか？
実務の悩み」と題するワークショッ
プも同時開催します。

各自治体等では、文書担当の職

員数が少ないケースもあり、各職場では細かな悩みを相談・検討する場をもつのが難しい、という現状があります。そこで、テーマごとに、3～5人の小グループで1時間ほど情報交換を行う時間を設ける予定です。史料の取り扱いにかかる内容ですので、民間所在史料等を扱う研究機関・学生・院生の方々など、気軽にご参加いただければ嬉しいです。

テーマ例：近現代文書等の個人情報等の取り扱い、文書管理について組織内への働きかけ方、これからの博物館・文書館、どんな施設をつくりたい？など。(テーマは変更となる場合があります)

■参加費 無料

■お申し込み方法

参加フォーム(<https://ws.formzu.net/dist/S21558128/>)よりお申し込みいただくか、事務局までメール(jasai@archives.city.amagasaki.hyogo.jp)にてお申し込みください。

■主 催 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会



参 考

例会の前提となる、全史料協第 45 回全国大会、公文書館機能普及セミナーの概要と、ワークショップの内容をお知らせします。ご参考ください。

□全史料協第 45 回全国大会（2019 年 11 月 14 日・15 日開催）

大会テーマ 「文書館（ぶんしょかん）」をつくる ～市町村が拓くアーカイブズ活動～
（大会趣旨）[抜粋]

…（前略）…市町村合併を経て、この間長野県内では長野市公文書館・小布施町文書館の開館や松本市文書館の新築移転 など、市町村における文書館の設置・拡充が進みました。そして、昨平成 30（2018）年 10 月に開館した安曇野市文書館をはじめ、長野県内の市町村ではこの 2 年で 5 館が開館しています。全史料協では、このような長野県の「文書館」設置の流れを受けて、本年度は市町村「文書館」＝基礎的自治体が行うアーカイブズ活動の役割を考えることを趣旨とする大会を考えました。

基礎的自治体においては、公文書管理法をきっかけとして新たに館を設置あるいは公文書管理条例を制定する例も増えてきました。しかし、それを単に公文書を適切に管理し移管・公開することにとどめず、民間所在の地域史料を含めた地域の記録全体の保存と活用を考える契機とし、地域住民のニーズに応えることが必要ではないかと思えます。つまり、地域の「文書館」において、自治体それぞれの身の丈にあったアーカイブズ活動とは何か、ということが問われているのではないのでしょうか。

安曇野市文書館の設立経緯も、公文書・地域資料双方の保存管理を行い、地域の記録全体の活用を考える視点から始まっています。その際に一番参考にしたのが、全史料協調査・研究委員会が平成 21～24 年にかけてまとめた「公文書館機能のミニマムモデル」でした。自分たちの自治体でできること、できないこと、目標に向かって取り組んでいることなどを踏まえて、安曇野市の現状に合った「文書館」が つけられました。

長野県内では、安曇野市と前後して、東御市・須坂市・長和町に文書館、今年 9 月には上田市に公文書館が開館し、さらにいくつかの自治体で「文書館」の計画が進んでいます。全国的に見ても、長野県内における「文書館」設置のムーブメントは特筆すべきものです。しかしその背景には、市町村合併に伴う自治体制の変化や、地域の過疎化、史料保存活動の担い手の高齢化、度重なる自然災害や火災など災害の問題があり、今「文書館」という施設がなければ、地域の記録はとも守れないという重大な危機感を背景に活動しているという声にも耳を傾けたいと思えます。これらは長野県に限らず、全国各地で直面している記録保存体制の危機的状況に、地域の「文書館」はどのような役割を果たせるのかという問題提起でもあります。

…（報告内容紹介略）…長野県内の「文書館」設置自治体及び準備中の自治体の声なども織り交ぜながら、公文書館機能を生かして基礎的自治体がつくっていく「文書館」のかたちや、それぞれの市町村や地域に合わせたアーカイブズ活動について考えていきたいと思えます。本大会を、参加されている会員諸氏がこのような旬な長野県内の熱い動向を体感し、その意義を全国各地に持ち帰り活かす機会としたいと思います。

□公文書館機能普及セミナーin 山形（2019年11月26日）

（セミナー趣旨）

昨今、公文書の管理について多くの問題が提起されていることはご存じのとおりです。

こうした公文書のうち歴史的記録について管理・公開を行う「公文書館」という機関は、残念ながら日本社会の中で浸透しているとはいえません。

山形県では、本年3月公文書管理条例が制定され、また、来年2月には歴史公文書を管理・公開する「山形県公文書センター」が移転・開館します。そこで、公文書館のエキスパートである講師をお招きし、もう一度、山形県の皆様とともに「公文書館機能」について根本から考えてみたいと思います。

□「共有しませんか？実務の悩み」ワークショップ

ワークショップは、テーマ毎に3～5人の小グループをつくって進めていきます。ご自身の関心のあるテーマについて、自由にご参加いただけるようにしたいと考えています。

進め方としては、冒頭に「話題提供」として、5～10分程度、そのテーマに関連した話題を、参加者よりお話しいただきます。その後は、基本的にはフリートークとします。実務上の「悩み」の解決のヒントになるような場にできればと考えています。

■テーマ例（予定）※参加者の人数により、当日テーマが変更となる場合があります。

・ 「近現代文書等に掲載されている個人情報等の取り扱い」

近現代文書に掲載されている個人情報・企業情報等の扱いは、指針があっても、公開に際して実務のレベルに落とし込むと様々な「気になること」がでてくると思います（マスキングの方法、公開までの作業期間等）。公開に関する批判・指摘を受け止めつつも、よりよい「公開」のあり方を考える作業は、今後ますます必要となってくると思われます。“話題提供”では、これまでの公文書「公開」において、長年にわたり実績を積まれている公文書館職員から、その現状をお伝えいただく予定です。

・ 「”かわかみ”（文書管理）に働きかける」

「歴史的公文書・行政刊行物の収集」と一言と言っても、実務上では、細かな問題点・課題が生じます。そこから、「収集しづらい」あるいは「収集できない」といったことが起こることもあるのではないのでしょうか。“話題提供”では、この課題に取り組み、改善をはかった事例をご紹介します。具体的には、文書管理に関する規程の改正への取り組みと行政刊行物の収集をめぐる関連組織との連携についてお話しいただく予定です。

・ 「新たにオープンする館・リニューアルする館-新しい「館」構想-」

全史料協大会でもテーマとなりましたが、全国的に少しずつですが、公文書館のオープンを目にするのが増えてきました。また、従来からある博物館・文書館等の施設において、ハードの老朽化にともない、リニューアルするところも少なくありません。複合施設としてのオープンといった、リスタートを切ることもあります。少し大きな話題となりますが、オープンやリニューアルといったことがなくても、館のマネジメントを含め、「目指すべき姿」を見つめ直すことは、その時々に応じて必要な作業となると思われまます。“話題提供”では、館のリニューアルを控え、どのような姿を目指すのか、どうあるべきか、という「構想」の部分について、お話しいただく予定です。